

## 歴博 暮らしの植物苑だより

第95回『暮らしの植物苑観察会』1月27日(土) 13:30～ 暮らしの植物苑  
「水田と焼畑」 西谷 大 (本館研究部考古研究系)

第12回『日本の植物文化を語る』2月24日(土) 13:30～ 本館講堂  
「古代植物文化史一心と体を支える植物たち」 辻誠一郎 (東京大学)

### 冬の華・サザンカ 展示継続中

冬の華・サザンカ展もサザンカからカンツバキ・ハルサザンカに変わってきました。苑内にはツバキ園芸品種・ヤブツバキ・九州南部地方のリンゴツバキ、沖縄地方のヒメサザンカなどこれから2月にかけて御覧いただけます。

ハルサザンカ



宝塚



古金襴

今回はリンゴツバキ、ヒメサザンカについて

リンゴツバキ：九州南部に自生するツバキで、果皮が厚くて大きい果実をつける、別名ヤクシマツバキともいう。昨年は8cm近いものをつけました。

ヒメサザンカ：沖縄地方に自生する、花の外形はツバキやサザンカの似るが、花径2～3cmの小さな花をつける。花には甘い芳香がある。

ヒメサザンカのつぼみ。



### 冬の植物苑ご来苑のかたに種子のプレゼント

1月5日から3月4日までの間、毎日先着10名様に暮らしの植物苑で採取した種子をプレゼントいたします。

**東屋に風避けコーナーを用意いたしました。ご利用ください。**

サカキ (ツバキ科サカキ属)

照葉樹林によくはえる常緑高木で、枝を神事に用いるので、神社によく植えられています。頂芽が細長く、先がカマ状に曲がるのが特徴的です。榊・賢木とも書きます。



シキミ (シキミ科シキミ属)

シキミ科はシキミ属1属で、アジアと北アメリカに隔離分布しています。葉を仏壇やお墓に供えたりするのに用いられる常緑小高木で、全木に芳香があります。葉や樹皮からは抹香や線香もつくられ、また全木には毒があります。



タチバナ (ミカン科ミカン属)

日本原産とされるかんきつ類で、常緑の小高木です。ヤマトタチバナともいい、文化勲章はこの花をかたどる。果実は小さく酸味が強い。



ツワブキ (キク科ツワブキ属)

海岸付近に生育する、常緑の多年草。瘦果は円柱形で毛を密生する。庭に植えてもよく育つので、古くから栽培されている。斑や縮れ葉の園芸品種も多い。またあぶつた葉を化膿や湿疹の治療に用いる。



植物苑にはヒヨドリ・ムクドリ・メジロ・ハト・スズメ・カラス・ホオジロなどさまざまな鳥たちがやってきます。特にエノキの傍を通ると、カサカサ・バラバラと鳥たちが実をついばむ音がしてきます。ハトが落ち葉を足で掻き分けて虫を探しているのか、よく見られます。またヒヨドリやメジロはサザンカやヤブツバキの花を食べにやってきます。植物苑では、植物だけでなくトリや動物との共生関係も見ることができます。



エノキの果実

